

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月30日実施）	
	具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（3月3日実施）	成果と課題	改善方策等
<p>(1) 中高一貫の特長を生かし、意欲や探究心を高め、多様なニーズに対応できる教育課程の開発を行う。</p> <p>(2) アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、生徒の主体的な学習により新たな学力の育成を図るための授業研究に取り組む。</p>	<p>(1) 新学習指導要領及び大学入試改革を見据え、多様なニーズ対応できる教育課程開発を検討する。</p> <p>(2) アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた活動例に触れながら、思考力・表現力と知識・技能をバランスよく育成する授業を研究する。</p>	<p>(1) 新学習指導要領及び大学入試改革に関する学習会を実施できたか。授業時数確保に向けた改革案を検討できたか。</p> <p>(2) アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を実践できたか。教科ごとに、テーマに沿った授業研究を検討できたか。</p>	<p>(1) 高大接続に関する学習会を実施し、情報の共有をすることができた。また、次年度より授業時間数確保のために、日課表を見直し認定単位数を改訂する方向で合意が得られた。</p> <p>(2) 年間を通し、アクティブ・ラーニングの趣旨を盛り込んだ教科目標を踏まえ、昨年に引き続き、教科ごとに研究授業を実施し、教科で検討する機会を設けた。</p>	<p>(1) 高大接続については、情報も不十分なこともあり、今後も引き続き検討していく。また、日課表の運用については、試行することで改善点があれば検討する。</p> <p>(2) 授業改善は、生徒による授業評価及び試験結果等を分析し、引き続き今後も改善していく。</p>	<p>(1) 早い段階で進学に対する意識が持てるよう、生徒、保護者への働きかけが行われている。日課表の見直しについては、生徒、保護者に、理由とともに説明が行われていた。</p> <p>(2) 授業改善については、保護者に伝わりづらい面がある。</p>	<p>(1) 新たな高大接続に関する学習会を実施し職員の意識改革を図った。また、課題研究の内容や評価の方法等の改善を目指し、次年度以降の方向性を確認することができた。</p> <p>(2) 研究授業期間において、外部講師を招き「主体的・対話的で深い学び」について具体化することによって、各教科の授業に取り入れる意識付けを行う企画が出来た。</p>	<p>(1) 国立大学の推薦入試や新思考型入試の情報を収集し、今後課題研究等の主体的で体験的な学習活動が重視されるという点を職員に周知し、本校における研究を推進する。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」に関し、本校の生徒に身に付けさせたい「3つの力」の実現に向けたカリキュラム・マネジメントを推進する。</p>
<p>(1) 生徒の特性を多面的に理解するため、情報の共有と外部機関との連携を推進する支援体制を充実させる。</p> <p>(2) 生徒の規範意識を高め、母校に対する誇りを持たせることにより、社会のリーダーとしての人格を育成する。</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの特性や課題を迅速に把握し、生徒情報共有会等を通じ全体で共有する。また、保護者等との連携を密にし、外部機関との連携を考えた構内支援体制を構築する。</p> <p>(2) 道徳の授業、LHR、委員会活動を通じ、生徒の規範意識を高める。</p>	<p>(1) 生徒の特性や課題を迅速に把握し、適切な支援体制が取れ、ケース会議等を通じて情報を共有し生徒理解につながることができたか。</p> <p>(2) 生徒の規範意識を高めるような活動ができたか。</p>	<p>(1) 情報収集シーートの書式を整え、ケース会議を重ねることで生徒理解を図ってきた。また、地域の外部機関から講師を招いて職員の勉強会を開き連携の在り方を探ることができた。</p> <p>(2) 生徒の規範意識等を高めるため、道徳やLHRでのグループ活動等を通じて、一人ひとりに考えさせることができた。</p>	<p>(1) 今現在、不登校等への初期対応や予防的教育の方略について検討を重ねている最中である。外部機関との連携や校内での事例検討会、学習支援の必要な生徒に対する個別対応等を通じてさらなる生徒理解・支援の充実を図りたい。</p> <p>(2) 生徒自らが主体的自発的に自分の問題として社会的規範問題に取り組めるような道徳等の教材の開発に取り組むたい。</p>	<p>(1) 学校として、一人ひとりのサポートを考えていこうという意欲を感じる。</p> <p>(2) 誇り、自覚、リーダーシップなど、中等生として大切なものであるが、それが重荷にならないよう、フォローもお願いしたい。また、上級生が下級生を教える場面を作るなど、生徒自身が自己評価を高められる工夫をお願いしたい。</p>	<p>(1) 生徒支援チームを中心としたケース会議や情報共有会が組織的に実施されるようになり、外部機関との連携も視野に入れた教育相談等が行われるようになってきた。</p> <p>(2) 部活動や生徒会、委員会活動等で社会に認められるような活動が増えてきているが、日常生活における挨拶や礼儀など、生徒の規範意識についての課題は多い。</p>	<p>(1) 不登校傾向にある生徒への初期対応や予防教育の研究および情報共有や外部機関との連携により、生徒や保護者に対し、効果的な支援体制を構築する。</p> <p>(2) 創立10年を迎えるに当たり、本校の校風を明確にし、誇りと自覚を持たせるよう、日常的な指導を徹底する。また、引き続きステューデントメンターの活躍の場の設定を検討していく。</p>
<p>(1) キャリア教育実践プログラムを検証し、多彩な体験活動を充実させ、豊かな人間性や社会観・世界観を備えたリーダーを育てる。また、生徒が、意欲的に進路実</p>	<p>(1)-a 多彩な体験活動を効果的に実施し、自分の将来像を具体化させるとともに、学校行事、部活動等を通じて自主自立の精神を備えたリーダーを育成する。</p> <p>(1)-b 進路説明会、講演会、</p>	<p>(1)-a 事後のアンケート調査等を通じ、多彩な体験活動や学校行事・部活動等により、自己の将来像を具体化できるようになったことやリーダーシップを発揮できるようになったことが確認できたか。</p>	<p>(1)-a 多彩な体験活動や学校行事・部活動等を展開することができた。また、それぞれの行事において、リーダーシップを発揮している様子が見えてきた。</p> <p>(1)-b 説明会等の実施時期に配慮した。講習受講者数が増加した。大学模擬授業は、講座</p>	<p>(1)-a 生徒たちに達成感と充実感を持たせ、自己の将来像を具体化できるよう、それぞれの行事に対する自己評価の基準を明確にするなど、振り返りの具体的な方策を探る必要がある。</p> <p>(1)-b 高大接続、大学入試改革を視野に入れながら、</p>	<p>(1)-a 様々な場面で色々な役割を果たし、それぞれの立場で考え行動することによって自信につながるよう働きかけてほしい。</p>	<p>(1)-a 外部講師を招き、職員向けの高大接続改革についての研修会を企画し、これからの推薦・AO入試等で体験的な活動が重要視されることを周知する。本校の多彩な体験的活動の評価方法や大学入試への結び付けが課題である。</p> <p>(1)-b 進路行事</p>	<p>(1)-a キャリア教育実践プログラムの各企画に、本校が育成したい「3つの力」を明確に位置づけ、ルーブリック評価等自己評価基準を明確にしたプログラムへと進化させる。</p> <p>(1)-b 高大接続改革の情報収集を積極的にを行い、時代の変化を生徒に意識させる</p>

<p>現を図る取り組みを進める。</p>	<p>大学模擬授業などの行事や講習、模擬試験等を効果的に実施し、生徒の進路に対する意識を高める。</p>	<p>(1)-b進路行事や講習、模擬試験等を通じ、進路に対する意識が高まったか。</p>	<p>数を大幅に増やし、生徒の意識向上を図った。</p>	<p>社会が求める学力を生徒に意識させていく必要がある。各学年に配置された行事がふさわしいものかを検討する。</p>		<p>の内容や実施時期を工夫し、講習受講者数等一定の成果が出ている。 大学模擬授業は、講師によって、生徒の満足度に差があることが課題である。</p>	<p>とともに、進路行事の内容や配置の再検討を行う。</p>
<p>(1)地域との協働・連携により生徒の活動の場を広げ、地域社会に貢献する意識を高める。</p>	<p>(1)-a 学校ホームページや学校紹介パンフレットの内容・デザイン等を見直し、効果的な情報発信や情報収集をする。 (1)-b 地域・保護者と連携した防災への対応準備を行う。 (1)-c 小学校・ろう学校・盲学校との交流内容を充実させ、同じ地域に生きるものとして信頼関係の構築に努める。</p>	<p>(1)-a 学校ホームページやパンフレットを改善し、効果的な情報発信や収集ができたか。 (1)-b 地域自治会と避難所運営に関する課題についての確認ができたか。 (1)-c 小学校・ろう学校・盲学校との交流内容を充実させ、継続実施することができたか。</p>	<p>(1)-a 学校ホームページの情報収集方法を改善し、ホームページの、リニューアル作業を完了した。また、学校紹介パンフレットのデザインを一新した。 (1)-b 地域自治会と避難所運営に関する課題についての確認ができた。 (1)-c 小学校・ろう学校との交流内容を充実させる企画を準備し、実施することができた。</p>	<p>(1)-a 新しい学校ホームページへの切り替えをし、新年度から運用していく。 (1)-b 地域の子ども大会における防災行事に、避難所としての協働実施を計画中である。 (1)-c 小学校・ろう学校・盲学校との打ち合わせを密にして、さらに交流の機会を増やし、お互いに学びあえる企画をつくる。</p>	<p>(1)-a 学校ホームページは多くの人の目に触れるものなので楽しみにしている。新しい情報がスピーディーに発信できるように努めてほしい。 連絡事項の掲載など、保護者のページも上手に活用していきたい (1)-b 防災への対応は大切。さらに地域との交流を深めてほしい。本校が避難所となったときに、生徒が地域の中で活躍できるようにしてほしい。</p>	<p>(1)-a 学校紹介パンフレットを一新し、見やすわかりやすいデザインとなった。学校ホームページのリニューアルの作業が完了した。 (1)-b 地域自治会と避難所運営に関する課題についての確認ができ、対応について準備している。 (1)-c 小学校・ろう学校・盲学校との交流内容を充実させる企画を実施することができた。</p>	<p>(1)-a 情報収集の方法を工夫し、リニューアルしたホームページをさらに充実させ、活用していく。また、効果的な広報のあり方を検討していく。 (1)-b 地区別集会など上級生がリーダーシップを発揮できる場を設定し、生徒の安全確保とともに地域への貢献につながる工夫をする。 (1)-c 小学校・ろう学校・盲学校との打合せを密にして、さらに交流の機会を増やし、お互いに学びあえる企画をつくる。</p>
<p>(1) 事故不祥事防止を徹底し、教職員の意識啓発や資質の向上を図る。また、職員の意見が企画に反映されるような職場作りを推進する。 (2) 日常における防災意識の向上を図り、緊急時の対応力や地域に貢献できる力を育成する。</p>	<p>(1) 業務を整理し、業務環境を整えとともに、各業務に関する詳細なマニュアルを作成し適切に業務を遂行する。また、職員間の情報共有を推進し、事故防止に努める。 (2) 防災マニュアルのスリム化等により、防災時により迅速な対応が可能になるよう一層の整備をする。また、効果的な防災訓練により生徒・職員の防災意識の醸成を図る。</p>	<p>(1) 全体で業務環境の検討・整備を行うことができたか。各業務についてのマニュアルを作成し、適切に業務を遂行できたか。 (2) 最新の防災マニュアルに更新し、防災意識や対応力の育成ができたか。</p>	<p>(1) 全体で業務環境の検討・整備を行うことができた。各業務についてのマニュアルを作成し、適切に業務を遂行することができた。 (2) 最新の防災マニュアルに更新し、防災意識や対応力の育成ができた。</p>	<p>(1) 業務の整理については、業務実施後の反省をもとに更に改善を進めていく必要がある。 (2) 防災環境の整備については、常に迅速な対応がとれる体制を確立していく必要がある。</p>	<p>(2) 学校として、防災に対して意識的に進めていることを保護者にアピールしていくことも必要。また、保護者との連携も大切である。</p>	<p>(1) 生徒の個人情報に係る書類や教務手帳の保管用個人ロッカーの設置により、情報管理に関する職員の意識はある程度向上した。採点時の答案の持ち帰り等については引き続きの課題となった。 (2) 地震や津波に関する防災訓練に加え、Jアラート発令時の対応を意識した訓練を実施し、生徒・職員の防災意識の向上を図った。</p>	<p>(1) 事故防止の観点から業務を整理し、改善点を引き継ぐ体制の整備を進める。特に個人情報の管理の徹底を図る。 (2) 災害時に、迅速に行動し、かつ安全に避難できるような訓練の企画と防災環境の整備を進める。</p>